

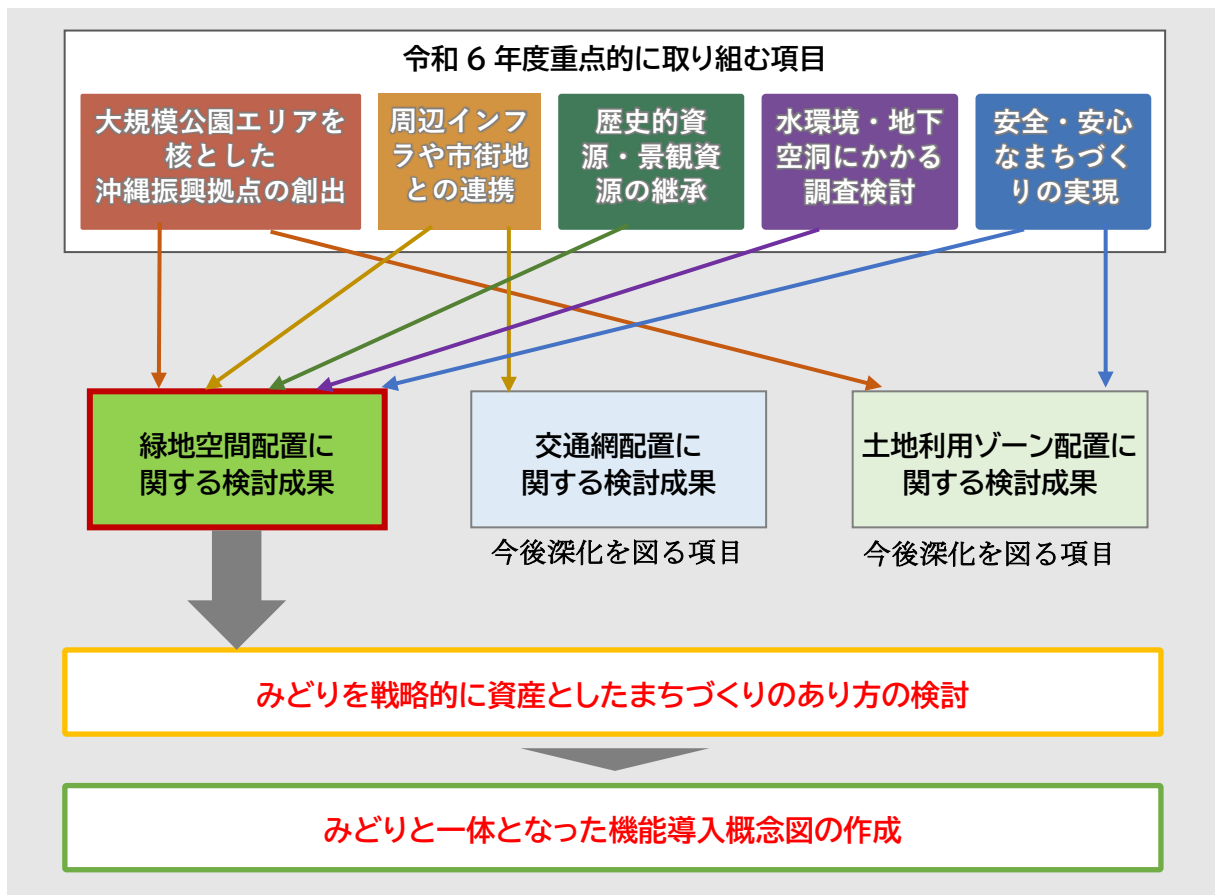
6. 土地利用の目標・方向性の検討

本年度の本項目では、全体計画取りまとめにおける配置方針図の更新に向け、跡地利用の骨格となる緑地空間配置の深化を図ることを目的とする。

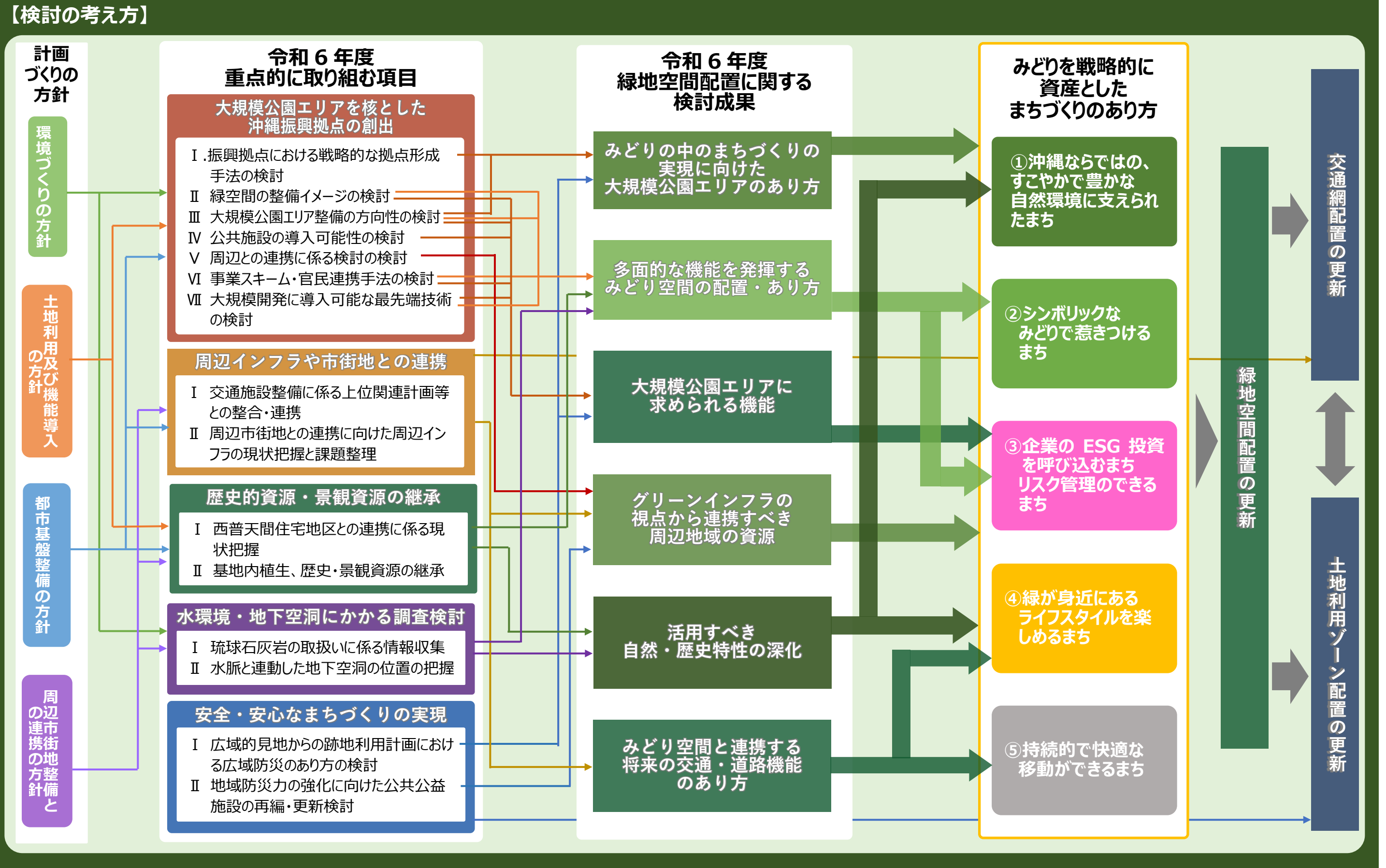
本年度の重点的に取り組む項目における緑地空間配置に関する検討成果を踏まえ、みどりを戦略的に資産としたまちづくりのあり方を具体的に整理する。また、緑を戦略的に資産としたまちづくりのあり方と本年度の緑地空間配置に関する検討成果がみどりと一体となることでどのような効果を期待するかについて整理した機能導入概念図を作成した。

以下に緑地空間配置に関する土地利用の目標・方向性の検討フローを示し、次頁以降に検討した内容を整理する。

【緑地空間配置に関する土地利用の目標・方向性の検討フロー】



1) みどりを戦略的に資産としたまちづくりのあり方の検討



【みどりを戦略的に資産としたまちづくりの在り方】

沖縄ならではの、すこやかで豊かな自然環境に支えられたまち

●リュウキュウツミ（案）と生きるまち

- ・リュウキュウツミが繁殖できる環境をめざす。
- ・ツミは生態系の高次消費者であり、ツミが繁殖できるのはエサとなる様々な小動物が生きられる多様な自然地がある証拠。
- ・跡地内外にまたがるエコロジカルネットワークの充実。

リュウキュウツミ



（図）エコロジカルネットワーク

- ・ツミが住める、自然度の高いまとまった規模の拠点的な緑地を中心に、小動物が生息可能な小～中規模な自然地・緑地を多数配置。
- ・これらの緑地がつながっていること（コリドーによるエコロジカルネットワーク）で緑地の生態的な価値が高まる。

●水の恵みがめぐるまち

- ・湧水と地下水をシンボル化。
- ・水の存在、人とのつながりが見える場がある。

おいしい
タイム



タイプの異なるビオトープをコリドーでネットワークする
（荒川エコロジカル・ネットワーク基本方針 国交省荒川上流河川事務所 HP）

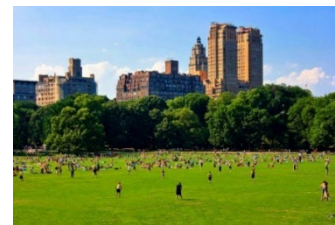
シンボリックなみどりで惹きつけるまち

●亜熱帯気候を生かした、緑と花が印象的なまち

- ・まちの顔となる空間では重点的に、美しくデザインされ良好に管理された緑や花を維持する。
- ・緑で不動産価値を上げる。

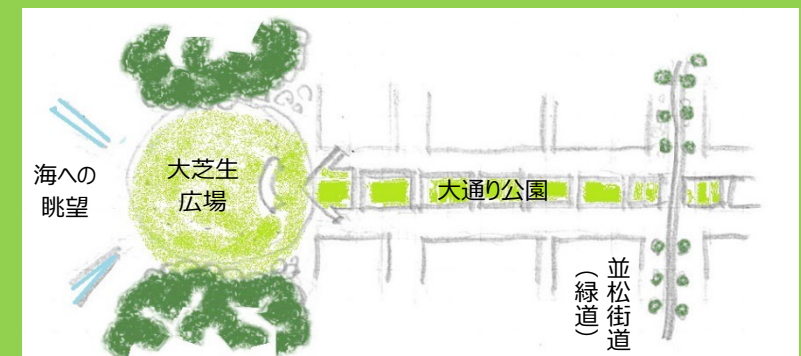
●シンボリックな大スケールのオープンスペース

- ・普天間公園（仮称）内に、だれもがアイコンとして知るシンボル性の高い空間をデザインしブランド化する。
- ・大規模フェスなどの開催できる規模を確保する。



●まちをつなぎ、未来へと歴史をつむぐ 並松街道の再生

- ・歴史を感じながら、新たなふるさとの風景として親しまれていく並木空間を整備し、緑地ネットワークの要諦として活用する。
- ・遺構や有形無形の歴史文化遺産を取り込む。



企業の ESG 投資を呼び込むまち・リスク管理のできるまち

●公園緑地がカーボנקレジットに（今後要検討）

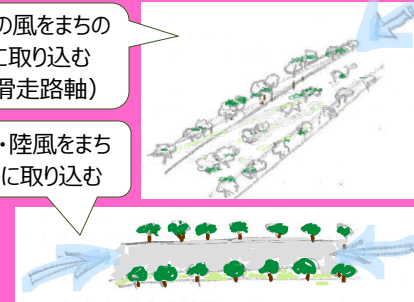
- ・普天間公園またはその他の緑地がカーボנקレジットを市場に供給するプロジェクトを実施する。

●低炭素化と涼しさを実現するまち

- ・グリーンインフラを生かしたエコなまち。
- ・風の道、緑陰などで涼しさを実感できるまち。

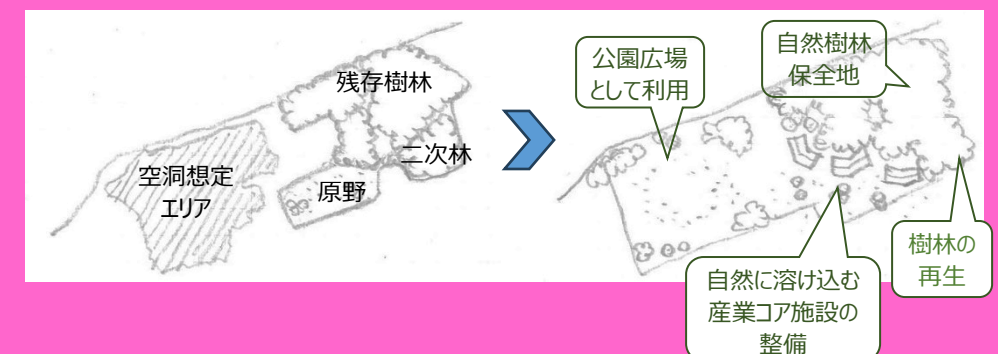
-1℃

北東の風をまちの軸に取り込む
（現滑走路軸）
海風・陸風をまちの軸に取り込む



●大規模災害のリスクコントロール

- ・災害に強い立地を生かし世界企業を呼び込めるまち。
- ・空洞等のリスクを踏まえ安全性の高い土地利用計画のあるまち。
- ・防災拠点のあるまち。



緑が身近にあるライフスタイルを楽しめるまち

●緑が身近にある暮らし

- ・家から徒歩 10 分以内に公園がある。
- ・散歩やジョギング、多様なスポーツが楽しめ、アートや文化に触れるさまざまな性格の緑地があり、ウェルビーイングが高まる。
- ・緑を通して交流・コミュニティが育まれるしくみがある。

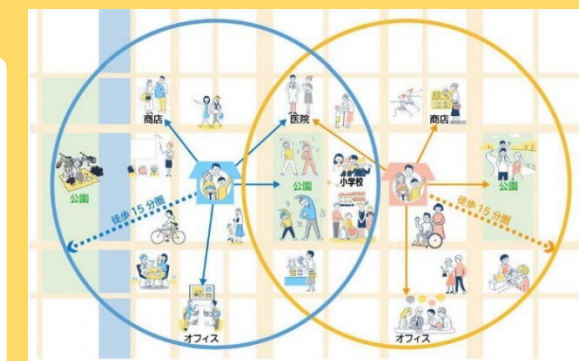


●環境が魅力的な産業コア

- ・先進的な研究機関や企業にとって魅力となる、質の高いリフレッシュ空間や良好な環境を提供する。
- ・産業施設と公園緑地がシームレスに一体化した環境とする。

●魅力的な教育環境

- ・質の高い保育・教育機関を呼び込む、自然豊かな環境や体験フィールドを提供する。
- ・魅力ある教育環境が、高度な人材の定着につながる。



＜徒歩 15 分圏域に暮らしに必要な機能を配置する
▽みどり空間の上に都市空間を形成する
（図出典：「2050 年都市ビジョン提言書バージョン 2.0」2024.5 2050 年都市ビジョン研究会（日本都市計画学会 研究交流分科会））

持続的で快適な移動ができるまち

●モビリティネットワークが充実し、渋滞ストレスの少ないまち

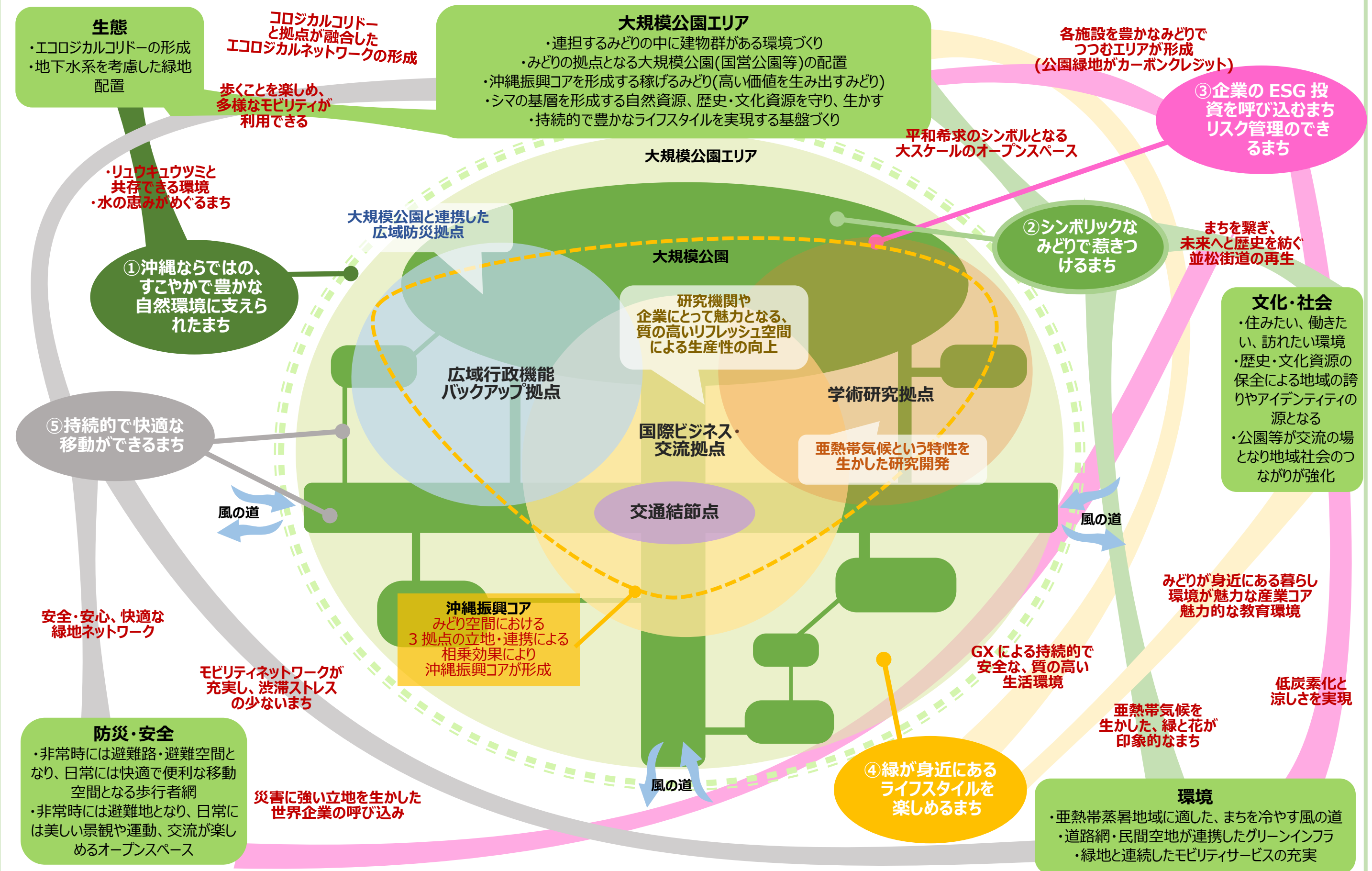
- ・歩行者優先でネットワークされ、安全に楽しく快適に歩けるまち。
- ・緑地と連携したモビリティサービスが充実し、移動が容易で車に頼らないまち。

事故率
減

徒歩 5 分以内に
交通ステーション



【みどりと一体となった機能導入概念図(大規模公園エリア)



【みどりと一体となった機能導入概念図(広域)】

